

♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2017年3月 ♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

やっと春めいてきましたね！この3月29日で、宗次ホールはお蔭様で開館10周年を迎えます！これも、足を運んでくださるお客様のおかげです！10周年関連イベントも随時開催していく予定で、注目の宗次エンジェルヴァイオリンコンクールも3月28日からです。

今後とも、宗次ホールを宜しくお願い申し上げます♪

【文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】

“昔から応援しているピアニストのひとり。
真摯で実直で知的で温和で礼儀正しい”
伊熊 よし子 (音楽ジャーナリスト)

佐藤 卓史 ピアノ

3月12日(日)14:00開演 3,500円(学生2,100円) [指定]

ピアニストにとって重要なレパートリー、
ショパン:バラード&スケルツォ全8曲を弾ききる！



宗次ホールに度々出演され、その度着実にファンを増やしている佐藤さん。その演奏は、甘ったるいお涙頂戴系でもない、筋肉モリモリ・技巧みせびらかし系でもない。長大な作品をも一つの物語にまとめ上げる構成力と、音楽に対する真摯な姿勢が滲み出るような素晴らしいピアニストです。ショパンの作品の中でも特にドラマ性や抒情性、深い内容を伴った人気の8曲を弾ききる今回のプログラム。「私にとっても大きな挑戦」と、お話されます。

「ピアノという楽器は他の楽器に比べると機械に近いので、人間の息づかいや声を表現することが不得意です。なので、いかにピアノを歌わせるか。ということもいつも考えて演奏しています。」と佐藤さん。子供の頃友達にピアノを弾いているのを見て、“偶然”ピアノと出会ったそうですが、音楽を総合的に把握したいという要求が強い佐藤さんにとって、ピアノという楽器はそれに向いていて、一番使い慣れた道具。と仰います。「演奏法の探究に向かうというより、ピアノを使ってどう音楽を表現するかということの方に、興味がある」と、お話される通りその才能は幅広く、演奏技巧を磨くことや編曲、作品の曲目解説執筆に留まらず、ご自分のホームページ作成・編集からオリジナルCDの販売用ポップ作成まで、音楽家としての活動に関する全てをこなされます。

7月3日(月)に開催する、同じ年に生まれた2人のタカシ(佐藤卓史さん&山本貴志さん)で13:30~のスイーッタイムコンサートも楽しみですね！

「想像をはるかに超えるファンタジーに聴衆は最初から最後まで振り回された」
(Hamburg Abendblatt紙)

ハンブルク・トリオ

3月26日(日)14:00開演 4,000円(学生2,400円) [指定]



↑ 2015年6月宗次ホール公演より

2015年6月に宗次ホールに出演され、その素晴らしい音色とハーモニーで聴衆を魅了したハンブルク・トリオ。即売のCDを多くのお客様がご購入されたのも、演奏の素晴らしさを証明していました。

ハンブルクといえばドイツ、やはり音楽の本場。例えばオーケストラの響き一つとっても、とても勉強にな

るとヴァイオリンの塩貝さんが仰います。組織面でも、上の意見に素直に従う日本の社会とは全く異なり、どのようなポジションにいる人でも納得がいかない時にははっきりと意義を唱えるそうです。一人ひとりがきちんと意見を持ち、主張する。皆思ったことを素直に言い合うので、ある意味、楽だと仰います。お互い本音で接している。という信頼があるからでしょうか、内輪では様々な意見が飛び交うのに、その音楽は不思議とまとまった音が出ると言います。そんな場で臆することなく自分の意見を主張できるのも、塩貝さんが渡独される前からコンクールを受けるため諸外国に度々渡っていたから。「私はコンクールで精神的に鍛えられましたから」と笑って仰います。

2015年の公演ではオール・ブラームス、そして今回はシューマンのピアノ三重奏曲&四重奏曲、とやはりドイツプログラム。最初は「シューマンのピアノトリオは人気が無いから」と塩貝さんは思っていたそうですが、チェロのヴィタウタス・ゾンデキスさんがどうしても譲らなかったとのこと。そして先日「シューマン全曲」をドイツで演奏してみたところ、考え方が180度変わったと塩貝さん。「全曲通して向き合って初めて分かることが沢山」と強調されていました。「ドイツに来てドイツ語や文法を知り、この国の作曲家の作品に対する理解が深まりました。文章でも、筆者の言いたい部分が強調されるように、曲の作り方もドイツ語の構造に沿っているような気がします。」と塩貝さんもお話される通り、その国の言語と音楽は密接な繋がりとあるとよく言われます。「ドイツでは皆、太い肉食系の音を出すんですよ！」と。

作曲家が言いたいことが分からなかったりすると、弾けるようになるまで寝かすという彼女。そしてしばらくするとふっとひらめいたり、他の曲を弾いている間に「ああ、あの曲はこういう感じなのかもしれない」と思える瞬間があるそう。写真を撮る

ときふとピントが合うように作曲家が残した“言葉”を理解し、繋がれる瞬間。そういう時に弾くのがベストだとお話されます。

～宗次ホール10周年記念公演～
5人の若きヴァイオリニストによる
名器と名曲の饗宴

3月19日(日)14:00開演 3,500円(学生2,100円)【指定】

※終演は19時頃を予定しております。

宗次ホールの代表・宗次徳二が、ホール設立以前に立ち上げたNPO法人イエロー・エンジェル。若手演奏家への楽器貸与や奨学金の給付、学校の吹奏学部への楽器寄贈等、支援を行っています。今回は楽器を貸与中であり、既に国内外で活躍する若手ヴァイオリニスト達が名器で名曲を披露する贅沢な内容です♪



14:00～の辻彩奈さんは度々出演頂いている当館お馴染みの若手俊英。2016年モントリオール国際音楽コンクールで日本人初めてとなる第1位及び数々の副賞を受賞された様子はメディアでも大きく報じられ、緊急決定した去年8月の公演も、即完売しました！あの時チケットをご購入頂け

なかった方も、今回はお聴き逃さないように…！『中学1年生の時から宗次ホールランチタイムコンサートに毎年出演させて頂き、ステージとお客様の距離が近いこと、終わってからも沢山の方が声を掛けて下さるのが暖かく、嬉しい。』と話す彼女をこれからも応援お願い致します！



15:00～の鈴木愛理さんは2006年、わずか17歳の時にポーランド西部ポズナニで開かれたヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで2位を受賞し、一躍国内外で注目を浴びた方。同じコンクールで16:00～の岡本誠司さんも2016年2位に輝き話題になりました。このヴィエニャフスキコンクール、1935年から開催されている歴史あるコンクールで、過去の入賞者にはジネット・ヌヴェー

やダヴィッド・オイストラフといった名手を始め、日本からも小栗まち絵さん、澤和樹さん(共に3/28～の宗次エンジェルヴァイオリンコンクール審査員)や古澤巖さん、神尾真由子さん…と第一線で活躍されている演奏家ばかり。

先の塩貝さんのお話とも重なりますが、「欧米の聴衆はオープンで柔らかい心で聴いてくれるけれど、その分シビアでもあり、自分が言いたいことをハッキリ訴えなければ、(コミュニケーションをとることが)難しい。それは“文化に対するディープな精神性”」と岡本さんは表現されます。

また、日本人演奏家ならではの強みとして、「数日ごとに変わっていく季節を感じる感受性。一つの音の響きで(移ろいを)表現することもできるはず。欧米の方は日本人の繊細な感受性に驚く。それをいかに表現するかが自分にとっての課題」とお話されます。



17:00～の篠原悠那さんは第1回宗次ツィゴイネルワイゼンコンクールで優勝され、ご自身が率いる「カルテット・アマービレ」が2016年ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で第3位の快挙！この公演では、宗次ツィゴイネルワイゼンコンクールの優勝者でもある彼女の弾くツィゴイネルワイゼン(2016年リリースの初CDにも

収録)も演奏予定。楽しみですね♪



18:00～のアンドレア・オピツさんは当館でも様々な公演のゲスト・アーティストとして出演されているイタリア出身のヴァイオリニスト！アメリカの名門カーティス音楽院で名匠アーロン・ローザンド氏(吉田恭子さん、古澤巖さん、第3回宗次エンジェルヴァイオリンコンクール優勝者であるキム・ダミさんなども師事)

の下で研鑽を積んでいます。

益々世界に羽ばたく演奏家達を一斉に聴けることに加えて、ソナタを始めヴァイオリンの名曲中の名曲たちを5時間たっぷり聴くことができるまたとないチャンス！貴重な10周年記念公演、お聴き逃しなく！

チケットのご予約・お問い合わせは
宗次ホールチケットセンターへ
☎ 052-265-1718(10時～18時)
お気軽にお電話ください！